

(1) レジ袋削減の取組み経緯とスケジュール
[ポイント]

- 平成22年度末マイバック持参率80%以上に向けて成果を上げており、実施店舗も拡大している

- ・ 環境対策として県民が広く取組むことが可能な「レジ袋」削減を実施するにあたり、年間約2億5千万枚と推計される県内のレジ袋の消費枚数の内、主要食料品スーパーが1億1千万枚と44%程度を占める実態を踏まえ、「わかやまノーレジ袋推進協議会」を設立する時点では、先ず総合食料品スーパーから実施することにした。
- ・ 実施カテゴリーを限定した要因は、事業者の足並みを揃えることが、レジ袋無料配布中止の成功に不可欠との判断からである。
- ・ 実際開始する時点では、薬局等も加わり、事業者カテゴリーは当初の想定から広がりを見せている。
- ・ レジ袋無料配布中止を開始する前は、マイバック持参率14.1%であったが、開始後は、ほぼ90%台で推移しており、大きな成果が得られている。

スケジュール	概要
平成15年3月	・ 「和歌山県廃棄物処理計画」策定
平成19年3月	・ 「第2次和歌山県廃棄物処理計画」策定
平成20年8月	・ 「わかやまノーレジ袋推進協議会」設立 レジ袋削減を推進する為、市民・事業者・行政が一体となった取組みを実施する為の組織
平成20年8月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「わかやまノーレジ袋推進協議会/第1回会合)」</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者団体、事業者、行政の各方面の参加者として、レジ袋削減について意見交換を実施した

平成20年9月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「わかやまノーレジ袋推進協議会/第2回会合)」</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施日（無料配布中止）、実施事業者、目標設定（マイバック持参率）を決定
平成20年11月～	・ 店頭キャンペーンにて、レジ袋無料配布中止の広報活動開始
平成20年12月	・ 平成20年12月2日、事業者、市民団体、わかやまノーレジ袋推進協議会会長、和歌山県市長会会長、和歌山県町村会会長、和歌山県知事により「和歌山県におけるレジ袋の削減に関する協定」を締結

平成21年 1 月	・平成21年1月23日、レジ袋無料配布中止の取組みがスタート。 ト。
-----------	---------------------------------------

(2) レジ袋有料化の効果

平成21年 3 月	90.7%
平成21年 7 月	90.5%
平成21年10月	90.3%
平成21年12月	90.7%

上記の値は、「わかやまノーレジ袋推進協議会」に加盟している各社の平均値である。以下は、実施店舗数の推移である。

平成21年 1 月23日	21事業者179店舗
10月 1 日	36事業者220店舗

当初のターゲットカテゴリーであった県内主要スーパーの90%は、参加しており、更にマイバックの持参率は90%を超えていることから、レジ袋での削減効果は、大きいものと思われる。県では、今後小規模小売店を含め、ホームセンター等へ拡大することで、更なる削減効果を狙っている。

(3) レジ袋有料化都道府県内一斉実施に至るまでの課題/対応/解決策 [ポイント]

- 県民への周知を目的に、参加事業者の店舗にてキャンペーン等を行った。

- ・ 「わかやまノーレジ袋推進協議会/第2回会合」（平成21年 9 月25日）にて、平成22年 1 月23日の開始を決めた。県民への周知を図るため、平成21年11月 5 日から参加事業者の主な店舗にて、啓発用ポケットティッシュを配布するキャンペーンを実施した（58店舗）。

(4) レジ袋有料化都道府県内一斉実施後の課題/対応/解決策 [ポイント]

- 実施店舗拡大によるレジ袋削減の環境への貢献度向上。

- ・ スタートから実施店舗は増えており、実施店舗でのマイバック持参率は、目標の80%を上回る90%台を維持している。
- ・ 県では更に業種の拡大、小規模小売店への普及により、実施店舗を増やすことで、県内のレジ袋消費を縮小させる考えである。
- ・ 実施事業者においてもレジ袋を無料配布している小売店が参加することで、実施している不利益が解消することから、実施店舗の拡大を望んでいる。

(5) “レジ袋有料化以外”の施策への展開状況と課題 [ポイント]

- STOP温暖化の対策として、家庭で出来る取組みとして「わかやまエコライフ宣言」を設定。

- 県では、STOP 温暖化の対策として、家庭で出来る取組みとして「わかやまエコライフ宣言」を設定している。
- エコライフは、28 の項目設定をしており、電気・ガス・水道の省エネの他、「購入する前に、本当に必要なものか考えてから購入する」といった消費行動も含み、その中にマイバック持参もある。